

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	機能再建・再生科学領域顎口腔機能再建学教育研究分野 氏名 小山 俊朗
指導教授氏名	小林 恒
論文審査担当者	主 査 松原 篤 副 査 掛田 伸吾 副 査 佐藤 温
<p>(論文題目) Investigation of distant metastasis occurrence rates with different treatments: A comparison of superselective intra-arterial chemoradiotherapy and surgery (治療法別の遠隔転移発生率に関する研究：超選択的動注化学放射線療法と手術療法の比較)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>口腔癌に対しては、外科手術を基本とする標準治療が行われている。一方で、超選択的動注化学放射線治療 (Superselective intra-arterial chemoradiotherapy: SSIACRT) は外科治療に劣らない治療成績を得ることが出来るが、手術を基本とした標準治療よりも遠隔転移率が高いとの報告もある。本研究では、2000年1月から2015年12月までの期間に弘前大学医学部附属病院歯科口腔外科において根治的治療を行った口腔扁平上皮癌症例のうち初診時に遠隔転移を伴わない384人を対象として、治療法別(手術単独群、手術+放射線治療群、SSIACRT群)に、T・N分類、遠隔転移率、局所制御率、5年粗生存率などについて統計学的に解析し、以下の結果を得た。</p> <p>単変量解析では、SSIACRT群は手術治療群に比し、遠隔転移率、局所制御率ともに有意に不良であった。しかし、ロジスティック回帰分析では、N分類のみが遠隔転移のリスクファクターであり、治療法別に関して有意差は認められなかった。また、治療法別の5年粗生存率の比較では、SSIACRT群は手術単独群よりは劣るものの、手術+放射線治療群よりも良好な結果が得られた。Cox 比例ハザード分析では、生存率に影響を及ぼす因子はN分類、遠隔転移の有無、原発巣の非制御であるとの結果が得られた。</p> <p>本研究の結果によって、SSIACRTが遠隔転移を助長させることは否定され、遠隔転移に対するリスクファクターはリンパ節転移のみであることが確認された。SSIACRTは再建を伴う根治手術よりも機能と形態の温存が可能となる利点があり、切除可能な症例においても機能温存を目的とした治療の選択肢の1つとなりうることを示唆された。</p> <p>以上より、本研究は口腔癌の治療選択に関して有益な情報を提供するものであり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Oral Science International: accept